

平成22年11月18日（木）  
国土交通省関東地方整備局  
企 画 部

## 記者発表資料

### 関東地方整備局事業評価監視委員会（平成22年度第6回）の開催結果について

関東地方整備局では、平成22年11月16日に、公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上を図るため、事業評価監視委員会を開催しましたので、審議結果をお知らせします。

- ・河川事業 再評価 ----- 4件の継続を了承
- ・道路事業 再評価 ----- 6件の継続を了承

なお、議事概要は、別紙1のとおりです。

※配付資料については、関東地方整備局ホームページでご覧下さい。

関東地方整備局ホームページ(<http://www.ktr.mlit.go.jp/>) → 募集・情報公開 → 公共事業の評価

URLダイレクト入力の場合 <http://www.ktr.mlit.go.jp/shihon/index00000018.html>

URLダイレクト入力の場合 <http://www.ktr.mlit.go.jp/shihon/index00000018.html>

### 発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、神奈川建設記者会  
刀水クラブ、東京都庁記者クラブ、神奈川県政記者クラブ  
山梨県政記者クラブ、静岡県政記者クラブ、横浜市政記者会  
横浜ラジオ・テレビ記者会

### 問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 TEL. 048-601-3151（代表）

048-600-1329（夜間直通）

地方事業評価管理官 たなか 田中 よしあき 良彰（内線2118）

企画部企画課課長補佐 いじま 飯島 まさのり 正典（内線3153）

(別紙1)

関東地方整備局事業評価監視委員会（平成22年度第6回）

議事概要

1. 日 時 平成22年11月16日（火）10:00～13:00

2. 場 所 三田共用会議所 3階 「大会議室」

3. 出席者

[委員長]

家田 仁（東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授）

[委員長代理]

鈴木 誠（東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授）

[委員]

秋山 哲一（東洋大学理工学部建築学科教授）

大野 栄治（名城大学都市情報学部教授）

清水 義彦（群馬大学大学院工学研究科社会環境デザイン工学専攻教授）

堤 マサエ（山梨県立大学国際政策学部総合政策学科教授）

萩原 清子（佛教大学社会学部公共政策学科教授）

山崎 朗（中央大学経済学部教授）

笠 京子（明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授）

(敬称略、五十音順)

[関東地方整備局]

副局長 荒川、総務部長 本東、企画部長 金尾、河川部長 山田、  
道路部長 縄田、営繕部長 遠藤、用地部長 深澤 他

[中日本高速道路株式会社]

東京支社 建設事業部長 源島

## 4. 議 事

### (1) 挨拶

- ・ 関東地方整備局長（代理：副局長）

### (2) 審議

#### 1) 再評価対象事業の概要説明

- ・ 関東地方整備局の河川事業4件、道路事業6件の概要説明

#### 2) 審議

- ・ 特に重点的な審議を要する案件として4件選定された。
- ・ 事務局より説明された再評価対応方針（原案）は、了承する。

#### ① 評価対象事業

##### （河川事業）

中川・綾瀬川直轄河川改修事業	-----	継続
鶴見川直轄河川改修事業	-----	継続
富士川直轄河川改修事業	-----	継続
利根川上流特定構造物改築事業（谷田川第一排水機場）	-----	継続

##### （道路事業）

○一般国道15号 蒲田駅周辺整備	-----	継続
一般国道20号 大月バイパス	-----	継続
一般国道52号 上石田改良	-----	継続
○一般国道246号 山北バイパス	-----	継続
○一般国道468号 首都圏中央連絡自動車道（横浜湘南道路）	-----	継続
○一般国道468号 首都圏中央連絡自動車道（茅ヶ崎～海老名）	-----	継続

○：特に重点的な審議を要する案件として選定された事業

### <委員からの主な意見等>

#### （河川事業）

- ・ 計画策定後、一定の期間が経過した場合には、効率的な事業の執行の上からも適宜計画内容の点検を行うこと。

#### （道路事業）

- ・ 一般国道15号蒲田駅周辺整備事業の事業費増の要因について、工学的知見に基づき整理し、委員会資料として後日追加すること。
- ・ 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道（茅ヶ崎～海老名）について、河川協議の経緯について整理し、委員会資料として後日追加すること。
- ・ 関係機関協議を実施する場合の協議結果に関する事業費負担のあり方、確保する技術的水準について、ルール化も含めた議論が必要。

- 一般国道 246 号山北バイパスのその他便益の取り扱いについては、道路の整備効果ではあるが、数値としてのとりまとめは今回再評価では参考的なものであるので誤解がないように委員会資料に補足を行うこと。